

第3章 安曇野市地域公共交通総合連携計画

第1節 地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

1. 安曇野市地域公共交通総合連携計画に求められる役割

(1) 背景

安曇野市は、平成17年10月1日に、安曇野地域の5町村が合併して誕生した人口約10万人、面積約332平方キロの田園都市です。当地域では、一部の路線を除いて、民間路線バスが廃止されており、旧町村においては独自に交通施策を行っていましたが、連携がとれていなかったり、利用者が低迷するなどの実態があり、地域間の交流や連携を推進し、安全で快適な地域づくりを目指すうえで、各地域内の運行にとどまる交通体系を再構築し、新たな公共交通システムを確立することは合併前からの重要かつ早急に解決すべき課題となっていました。

平成18年7月から国土交通省と連携し、各地域の住民意向を十分に反映した新たな公共交通システムの実現を目指した検討会を設け、検討を重ね、平成19年9月10日から全市的な新公共交通システムによる試行運行を開始しながら、安曇野市地域公共交通総合連携計画策定のための調査検討を実施してきました。

(2) 基本的な考え方

○生活交通の確保、充実を図ることにより、安曇野地域の活性化、より良いまちづくりに貢献する。

安曇野市地域公共交通総合連携計画については、平成18年から行ってきた、調査・検討の経緯を踏まえ、旧町村の歴史、地理的特性、住民移動傾向や、観光資源に恵まれた当該地域への来客者の意向を留意しつつ、サービスレベルが高く、効率的な地域公共交通の実現を図るため、先の方針に則って計画を実行します。

(3) 安曇野市新公共交通システムについて

安曇野市における今までの交通体系を利用者利便の視点から、掘金地域で運行していた「うららカー」の仕組みを中心に再構築し、車を運転しない高齢者を中心に通院・買物等への自由な移動を確保する電話予約によるデマンド型交通と、朝夕の通勤・通学のため電車運行時刻と連携し、基本ルートを設定した運行を組み合わせた、『安曇野市新公共交通システム「あづみん」』の運行を試験的に実施しました。

平成19年10月から、運行状況や、利用者評価（利用人数、意向など）を把握・分析することに努め、「長野県安曇野市地域における公共交通システム構築のための協議会」や、「安曇野市地域公共交通会議」等にて、検討を重ねてきました。

今後の安曇野市地域公共交通総合連携計画の実行に向けて、「安曇野市地域公共交通協議会」を中心として更に協議を進め、地域一体となった実行体制にて取り組む予定です。

2. 地域公共交通の活性化及び再生の総合的かつ一体的な推進に関する基本的な方針

(1) 基本方針

安曇野市の地域公共交通の活性化及び再生を総合的、一体的かつ効率的に推進するため、以下を基本的な方針とします。

- 生活交通の確保、充実を行うことで、地域間の連携や一体感を醸成し、地域の活性化に寄与する。
- 市民の意向を十分に把握、反映させ、サービスを向上させつつ愛されて利用されるよう努める。
- 観光資源を生かし、観光客に満足感を与えるとともに、安曇野地域の振興に貢献する。
- 市民や行政をはじめ、関連する団体、企業が連携し、地域が一体となり総合的に施策の実行にあたる。

(2) 基本認識

安曇野市地域公共交通総合連携計画については、以下の認識に基づき運営、施策の実施、検討を行います。

- ・新公共交通システム「あづみん」による、交通空白地域の解消、病院、商店等へのアクセスや、市民生活の質的向上、観光客や市民の公共交通の利便性に対する満足度の向上のため、実証運行を行いながら、更なる利用促進活動の実施、利便性の向上についての検討を行い、利用しやすい公共交通を目指します。
- ・既存の公共交通の利用促進や、脱石油型の公共交通システムの構築などを含め、各地域の特色を生かしつつ、市としてふさわしい更なるまちづくりや、安曇野らしさを前面に打ち出した観光とも連携しながら、さまざまな課題について総合的、一体的、効率的に検討し、改善や施策の実行を行っていきます。

(3) 改善実行計画の基本的な考え方

「安曇野市地域公共交通協議会」や「安曇野市地域公共交通協議会幹事会」を課題改善の検討の場として設け、以下の基本的な考え方により改善を図ることとします

- ・自治体をはじめ、運行事業者、関連団体、住民とともに課題の共通認識の下、地域が一体となって計画を進めます。
- ・モデル的、試行的にできることから改善に取り組みます。
- ・魅力ある観光地を目指し、観光に携わる関係者とともに、様々な課題についても共通認識し施策の実行にあたります。

3. 公共交通サービスの整備方針と方向性

(1) 安曇野市新公共交通システム「あづみん」(デマンド型交通システム)の運行

① 整備方針

住民意向に基づき、市全域間の移動をドア・ツー・ドア、ドア・ツー・ポイントで円滑に実施できる交通システムを維持し、地域と行政が協働で、サービスレベルの向上と効率的な生活交通として定着を図り、発展させます。

併せて、学生の帰宅支援サービスを安心・安全の確保策として維持、拡張することについて検討を行います。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会や、予約管理の主体である安曇野市社会福祉協議会を含め、自治体、交通事業者で組織する運行委員会においてサービスの改善、PR活動を推進し、本システムのサービス維持・向上、及び住民への定着を進めます。
- ・利用者からの適正な受益者負担を得ることを基本とし、国や、県、安曇野市等からの適正な財政負担において運営します。
- ・安曇野市地域公共交通協議会や運行委員会において、「あづみん」の活用による地域活性化やまちづくりに寄与できる施策について検討します。

(2) 安曇野市新公共交通システム「あづみん」(基本ルートを設定した区域運行)の運行

① 整備方針

朝、夕に利用する、「通勤・通学者の交通手段」の確保のために、「穂高駅～明科駅」・「豊科駅～田沢駅」・「明科駅～白坂口」間において、基本ルート設定による運行を地域と行政が協働で、サービスレベルの向上と効率的な生活交通として定着を図り、発展させます。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会や、安曇野市社会福祉協議会を含め、自治体、交通事業者で組織する運行委員会においてサービスの改善、PR活動を推進し、本システムのサービス維持・向上、及び住民への定着を進めます。
- ・学生の安心、安全及び教育環境の整備の観点から、教育関係者を交えて安曇野市地域公共交通協議会において、サービスの向上、あり方について検討します。
- ・利用者からの適正な受益者負担を得ることを基本とし、国や県、安曇野市等からの適正な財政負担において運営します。

(3) 観光と連携した交通システムの構築

① 整備方針

安曇野市地域公共交通協議会の幹事会や部会を中心に、安曇野地域の観光地としての魅力向上に寄与する交通や、サービスのあり方を検討し、試験的な施策に取り組みます。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会の幹事会や部会を中心として、観光施策の実行と連携した、交通サービスの情報発信方法の検討と施策を実行します。
- ・パークアンドライドの設置や、観光関係者との連携を進め、観光交通サービスを試験的、モデル的に実行します。

(4) 脱石油型の交通システムの構築

① 整備方針

- ・温暖化や自然エネルギーの枯渇など社会を取り巻く状況が大変厳しくなる状況において、自然エネルギーや、バイオマスエネルギー等の活用の検討とモデル的施策を実施します。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会や幹事会、部会において、他の機関と連携しながら情報収集を行い、先進地等各種調査や実施に関する研究を行います。
- ・自然エネルギーや、バイオマスエネルギーを活用したモデル的な施策の検討を進めます。

第2節 地域公共交通総合連携計画の区域

安曇野市地域公共交通総合連携計画の区域は、安曇野市全域（豊科地域 穂高地域 三郷地域 堀金地域 明科地域）とします。

第3節 地域公共交通総合連携計画の目標

安曇野市地域公共交通総合連携計画の目標は、基本方針に基づき、概ね10年で実現する目標を設定します。

(1) 安曇野市新公共交通システム「あづみん」(デマンド型・基本ルートを設定した区域運行)

- **地域住民の生活を支える交通手段として確立し、交通ネットワークとして定着、確立するため、特に平成20年度から3年間は実証運行を行います。**

利用者サービスの増加、満足度の向上を図り、愛される交通システムを目指すため、運行ルート、運行方式、料金など、住民意向を把握した上で改善を行います。

① 具体的な数値目標

- ・1日平均利用者数420人
- ・年間利用者数420人×245日=102,900人

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会において、利用状況の把握、分析を行い、よりの確な改善を図ります。
- ・関係者のPR活動により、利用の推進や、新公共交通システムに関する理解を進めます。
- ・自治体等が実施する諸施策と連携し、学童から高齢者まで幅広く利用される施策展開を図ります。

(2) 既存公共交通の利用促進

● **既存運行事業者と連携し、現在運行している公共交通の利用を促進します。**

既存運行事業者等と連携し、サービス内容の検討を行い、既存公共交通の利用を促進します。

① 具体的な目標

- ・既存利用者数の増加を図ります。
- ・施設や、駐車場、パークアンドライドなどの整備を進めます。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会、幹事会、部会において問題点を洗い出し、利便性向上の検討を進めながら、関係者との連携を図り利用を促進し、必要な整備をすすめます。

(3) 観光振興に寄与する公共交通システムの構築

● **観光施策と連携し、観光地安曇野らしい情報発信を行いながら、観光振興に寄与する公共交通システムを目指します。**

安曇野市地域公共交通協議会や幹事会、部会を主体に、関係者と連携しサービスの検討を行い、観光施策からより効果の高い公共交通システムの検討、モデルケースの検証を行います。

① 具体的な目標

- ・当面、現状の観光周遊バスを運行しながら、観光施策と連携した公共交通モデル施策の検討を行います。
- ・駐車場や、パークアンドライドなどの整備を進めます。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会や幹事会、部会において現状の観光周遊バスなどの運行状況を検証しながら、市民生活や、観光振興に寄与するより効果の高い公共交通システムの運行を目指します。

- ・観光客の状況や観光施策の実態を調査しながら、的確なターゲットを定め、観光等の情報とも連度させた、公共交通サービスに関する情報提供を行います。
- ・関係者の施策の連携性、親和性を十分に検討し、観光客の増加につながる施策のあり方について、共通認識を醸成します。

(4) 脱石油型の交通システムの構築

●自然エネルギー、バイオマスエネルギーを活用した交通手段について検討し、バイオディーゼル燃料の活用などを推進します。

安曇野市地域公共交通協議会や幹事会、部会を主体に、調査研究を行い、自然に配慮した公共交通システムのモデル的な施策の検討を行います。

① 具体的な目標

- ・自然エネルギー、バイオマスエネルギー活用の検討とモデル的施策を実施します。

② 方向性

- ・安曇野市地域公共交通協議会や幹事会、部会において、他の機関と連携しながら自然エネルギーや、バイオマスエネルギーを活用したモデル的な施策の調査研究を行い、BDF事業を進めます。

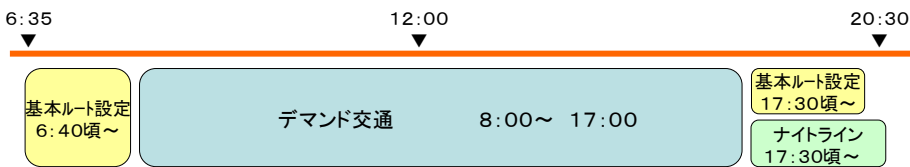
第4節 目標を達成するために行う事業及びその実施主体に関する事項

1. 安曇野市全域における乗合タクシー「あづみん」の運行

(1) 事業の概要

住民意向に基づき、市全域間の移動をドア・ツー・ドア、ドア・ツー・ポイントで円滑に実施できるサービス、夜間の帰宅支援サービス、学生及び通勤者の交通手段確保のための、「穂高駅～明科駅」「豊科駅～田沢駅」「明科駅～白坂口」における基本ルートを設定した区域運行サービスの本格運行を目指します。

安曇野市地域公共交通総合連携計画「あづみん」実証運行概要(運行日は平日)



基本ルート設定	デマンド交通	ナイトライン
【エリア】 穂高駅～明科駅 豊科駅～田沢駅 明科駅～白坂口(夕方のみ) ※料金:1乗車 ・大人 200円 ・小中高校生 100円 ・障害者(手帳提示) 100円 ・未就学児 無料 ・通勤用定期券(駐車場付) 1月4,000円 ・通学用定期券 1月2,000円 【予約】 不要 【主な利用目的】 長野方面 通勤・通学用	【エリア】 安曇野市全域 (一部運行できない地域もあります) ※料金:1乗車(乗り継ぎ時も同額) ・大人(中学生以上) 300円 ・小学生 100円 ・障害者(手帳提示) 100円 ・未就学児 無料 ・大人用11回3,000円(割引回数券) 【予約】 必要(予約方法:電話) 【主な利用目的】 通院・買物等市内移動	【エリア】 豊科駅～堀金地域 【予約】 必要 (予約方法:電話、インターネット) 【主な利用目的】 高校生 帰宅用

実証運行における車両配置イメージ

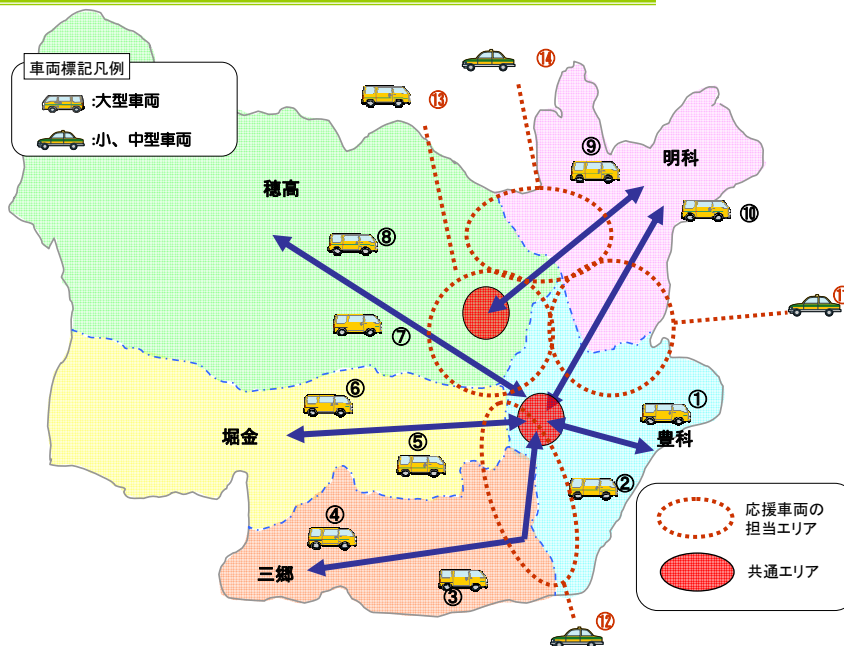


図. 実証運行における配車イメージ

① 安曇野市新公共交通システム「あづみん」(デマンド型)の運行

■受付・配車・予約イメージ

受付・配車・予約イメージ

受付 配車イメージ

●利用者は原則事前登録が必要となります。(事前登録受付中)

【公共交通システム予約イメージ】

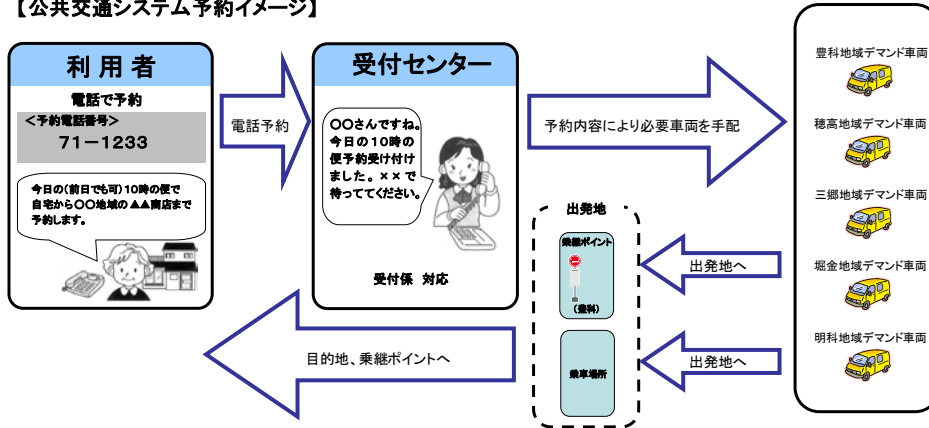


図. 受付・配車・予約イメージ

■移動イメージ

豊科地域のデマンド運行イメージ(移動動線)

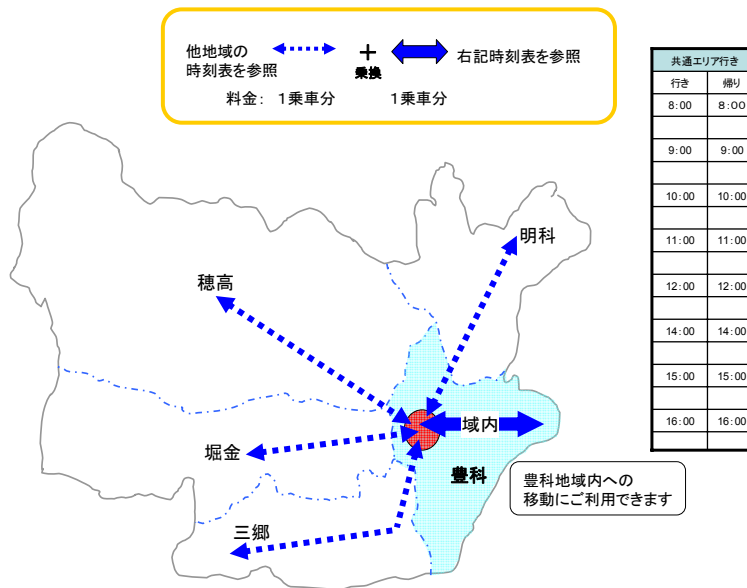


図. 豊科地域の移動イメージ

穂高地域のデマンド運行イメージ(移動動線)

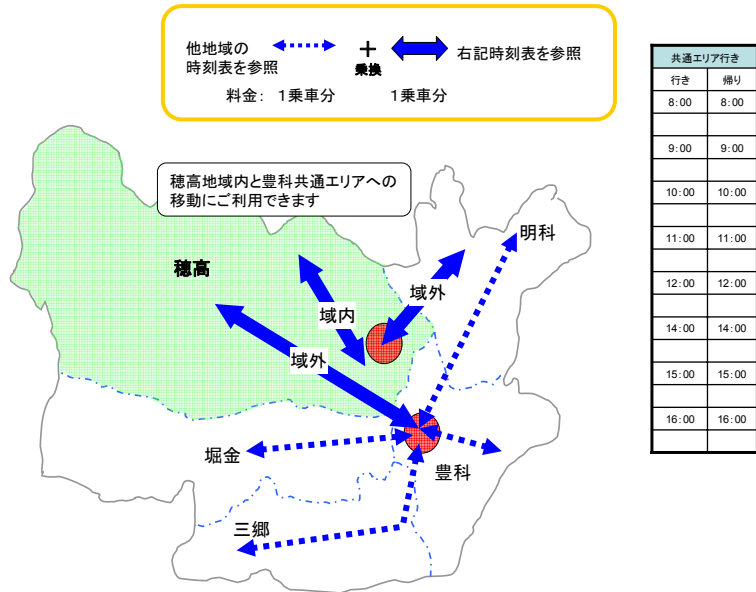


図. 穂高地域の移動イメージ

三郷地域のデマンド運行イメージ(移動動線)

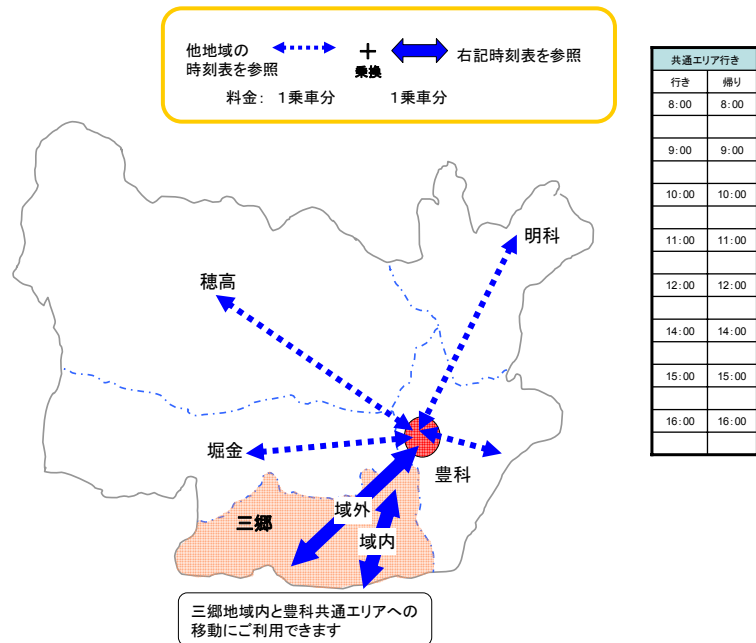


図. 三郷地域の移動イメージ

堀金地域のデマンド運行イメージ(移動動線)

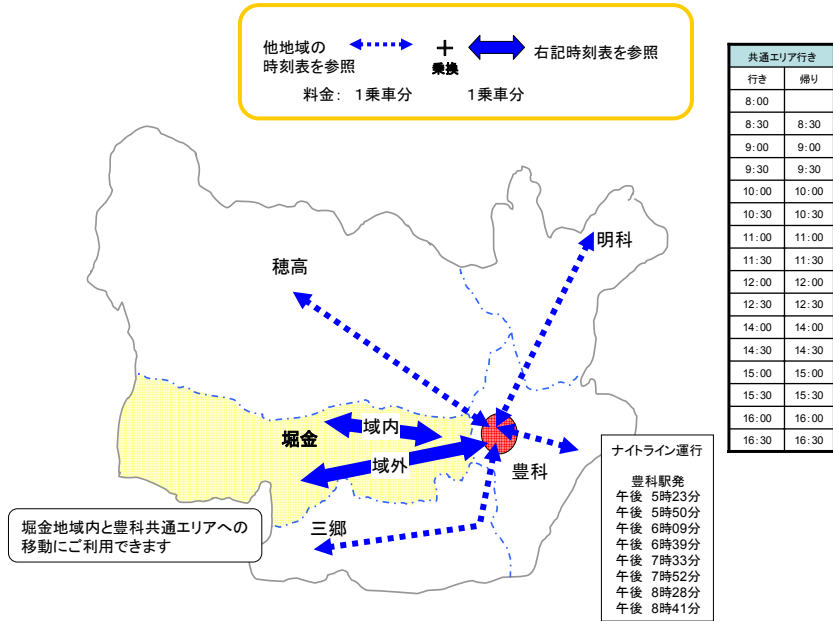


図. 堀金地域の移動イメージ

明科地域のデマンド運行イメージ(移動動線)

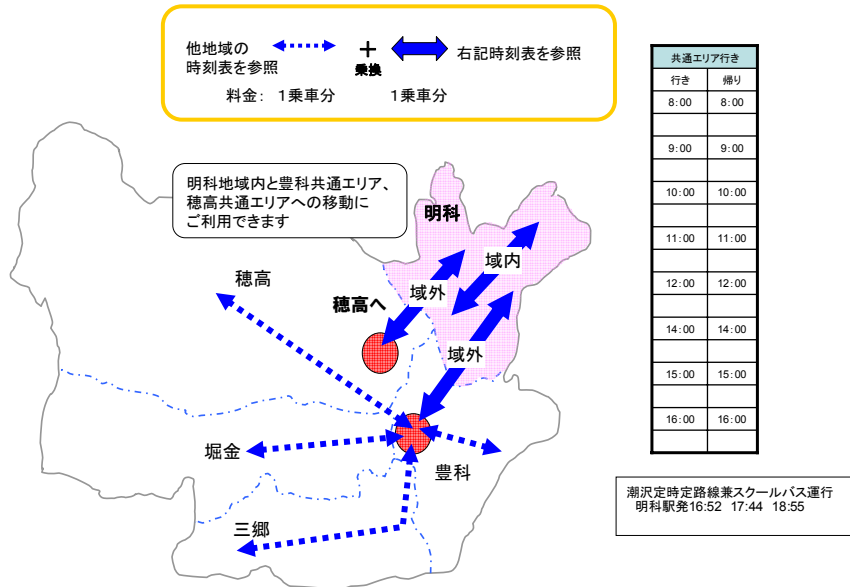


図. 明科地域の移動イメージ

■ 共通乗合エリア

豊科共通乗合エリア



図. 豊科共通乗合エリア

穂高共通乗合エリア



図. 穂高共通乗合エリア

② 安曇野市新公共交通システム「あづみん」(基本ルートを設定した区域運行)の運行

■基本ルートイメージ

田沢駅～豊科駅間基本ルート (基本ルートを設定した区域運行)



図. 田沢駅～豊科駅間基本ルートイメージ

穂高駅～明科駅間基本ルート (基本ルートを設定した区域運行)

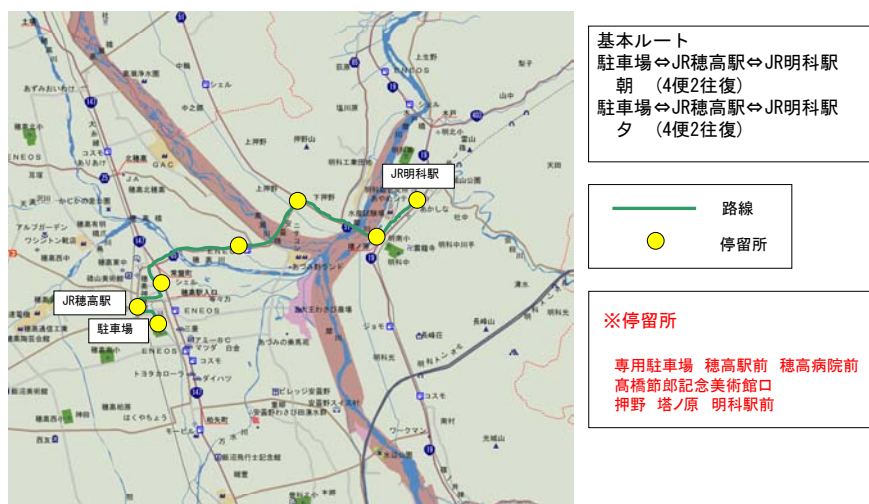


図. 穂高駅～明科駅間基本ルートイメージ

(2) 実施主体

予約管理主体：安曇野市社会福祉協議会

運行主体：南安タクシー(有) 安曇観光タクシー(株) 明科第一交通(有)
(株) バイタル

(3) 計画期間

平成20年度～平成29年度(特に平成20年度から平成22年度までの3年間、利用を定着させ、改善改良を加えるための実証運行を行います)

2. 既存公共交通の利用促進

(1) 事業の概要

関係者の連携を図りながら、既存公共交通の利用を促進し、安曇野市新公共交通システム「あづみん」との連携や、必要な整備をすすめます。事業の詳細は第6節の1参照。

(2) 実施主体：調整中

(3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

3. 観光周遊バス等を利用した市内観光の活性化策の実施

(1) 事業の概要

既存で運行する観光周遊バスを当面継続して運行しながら利用を促進し、安曇野市新公共交通システム「あづみん」との連携や、路線強化も含め検討を続けます。

(2) 実施主体：安曇野市観光協会・松本電気鉄道(株)

(3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

4. 安曇野市を訪れる観光客や市民の移動手段としてのパークアンドライド整備

(1) 事業の概要

安曇野市を訪れる観光客や市民のための移動手段としてパークアンドライドの整備を行います。

(2) 事業主体：未定

(3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

5. 安曇野市の観光振興に寄与する地域公共交通の活性化

(1) 事業の概要

観光振興施策や、観光施設等との連携による公共交通サービスの情報提供を行い、観光振興に寄与する地域公共交通の活性化を目指します。

(2) 事業主体：未定

(3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

6. 山岳観光促進のための駐車場などの整備

- (1) 事業の概要：山岳観光促進のための駐車場などの整備を行います。
- (2) 事業の主体：未定
- (3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

7. 脱石油型の交通システムの構築

- (1) 事業の概要：自然エネルギー、バイオマスエネルギーを活用した交通手段について検討し、バイオディーゼル燃料の活用などを推進します。
- (2) 事業主体：未定
- (3) 計画期間：平成20年度～平成29年度

第5節 計画期間

安曇野市地域公共交通総合連携計画の期間は平成20年度から平成29年度の10年間とする。

第6節 安曇野市総合連携計画の実施に関し必要と認める事項

1. 利用の促進

(1) 市からのPR活動

市広報などを活用し、住民の利用啓発、環境保全意識向上などを図ります。

暮らしを結びます。人をつなげます。

市全域にデマンド交通

1回の乗車でどこまで行ける？

- 豊科地区から豊科地区内へ、豊科地区から豊科地区内へ、豊科地区から豊科地区内へ。
- 穂高地区から穂高地区内へ、穂高地区から穂高地区内へ、穂高地区から穂高地区内へ。
- 三郷地区から三郷地区内へ、三郷地区から三郷地区内へ、三郷地区から三郷地区内へ。
- 穂高地区から穂高地区内へ、穂高地区から穂高地区内へ、穂高地区から穂高地区内へ。
- 明科地区から明科地区内へ、明科地区から明科地区内へ、明科地区から明科地区内へ。
- 明科地区から穂高地区内へ、明科地区から穂高地区内へ、明科地区から穂高地区内へ。

【新・公共交通システムとは】

町界を越えて、町界を越えて運行される「デマンド交通」。町界を越えて運行される「デマンド交通」。町界を越えて運行される「デマンド交通」。

【デマンド交通ってなに？】

事前に電話などで予約した人の家や指定する場所を順番に回る。町界を越えて運行される「デマンド交通」。

【利用登録開始！】

ご利用いただくには、事前登録が必要です。6ページの「利用登録」に必要事項を記載し、町界を越えて運行される「デマンド交通」。

9月10日(月)から試行予定!

新・公共交通システム

図. 広報あづみの39号（平成19年6月20日発行）

(2) 協働による関連組織からのPR活動

予約管理主体である社会福祉協議会における、来訪者への説明会の実施や、安曇野市商工会等との連携、利用者からの口コミPRなど、未利用者に向けたPR活動を実施します。

9月10日(月)から新・交通システム「デマンド交通」の試行運転が始まります。暮らしの中では、買物に、病院に、駅に、市役所に、さまざまな外出の機会があるものです。路線バスが廃止され不便を感じていた方も多かったことでしょう。

試行運転が始まるデマンド交通は乗客の路線バスの手帳と同様に、乗客の乗車券を兼ねた新しい移動手段です。乗り合わせることで料金を安く、自宅と目的地をつなぐための準備まで行く必要がありません。

つなげます。近づけます

- デマンド交通を利用するにはあらかじめ利用登録が必要です。登録料は不要ですので、ぜひ登録ください。
- ご利用の前には予約受付センター(TEL:77-1233)にご連絡ください。乗客のお届け希望日のない1週間、お申し込みします。予約受付は午前7時40分〜午後4時40分までです。ご利用の30分以上前には予約ください。午前8時の便は前日(月曜日)に利用される場合は金曜日までに予約ください。平日(土日・祝日・年末年始を除く)の午前8時から午後8時までの間、時間(状況によっては30分)間隔で運行します。曜日の午後1時〜2時は運休します。
- 予約の際は出発地と目的地をお伝えください。希望所はお知らせはどつらうしたいですか? 例えば「自宅から〇〇まで」あるいは「〇〇駅前から自宅まで」とおっしゃってください。

全国に広がっているデマンド交通ですが、10万人規模の自治体では初めての試みになります。使いづらさや軽微な点があると思いますが、ぜひ前向きなご意見を寄せ下さい。そして身近な交通手段として育てていきたいと思います。

愛称「あづみん」に決定!

新・公共交通システム「デマンド交通「あづみん」」試行運転が9月10日から始まります

暮らしの中で気軽に使える移動手段に

社会福祉協議会が管理・運営を行います

豊科共通圏エリアにある社協本所には、待合センターも設置されます。乗り換えの必要な別地域への移動の際は待合センターをご利用ください。

社協本所に設置される受付センターでは貴さんからの予約を電話で受付、配車を行います。コンピューターには利用登録された方の住所や移動の場所が登録されています。

ご質問にお答えします

問. 自宅からお店までデマンド交通で行くと、乗りはどつらうたいですか?

答. 主な公共施設やお店、医療など約2,000箇所が事前に登録されています。買物などの用途がすましたら受付センターに電話して乗りの予約を入れて下さい。

問. 登録料はどのくらいかかりますか?

答. 登録料は0円です。

問. デマンド交通を使って医療に行きます。乗りの予約もいっしょにできますか?

答. 乗りの予約がしっかり決まっている場合は受け付けます。ただ、診察時間が決まっていなない場合はお乗りのときあらかじめ予約をしてください。

問. デマンド交通を使うのは65歳以上の人だけですか?

答. はい。登録さえいただければ年齢に関係なく、どなたでもご利用いただけます。

問. 共通圏エリアとは何ですか?

答. 安曇野市を5つの地域に分け、地域内と豊科共通圏エリアへの移動は1回の乗車で可能となります。他の地域へは豊科共通圏エリアにて乗り継ぐことで移動ができるようになります。そこで共通圏エリアを設けることにより、そのエリア内から、エリアから特定の地域に向かう際に乗り継ぐことで効率的・つまり安く運行が出来ます。

こんな風に走ります

自宅前まで来てくれるから路線バスより親切
乗り合わせて行けば、暮らしの中で気軽に利用できる移動手段に

3人とも同じ目的地で予約が入っていますが、遠い方から順番に案内するのでお降りいただく順番も異なります。順番には余裕を持ってご利用ください。

降りる順番は目的地の場所により異なりますが、乗り合わせて乗降もよくご利用ください。

料金はこうなります

旧町村を基本とする地域内の移動
市内全域と豊科共通圏エリア間の移動
明科地域と豊科共通圏エリア間の移動

1回の乗車: 大人300円

これ以外の地域をまたぐ移動

2回の乗車: 大人600円

社協本所内の乗り継ぎセンターで乗り継ぎを行います。

利用料金:1乗車	
・大人(中学生以上)	300円
・小学生	100円
・幼児(手帳提示)	100円
・未就学児	無料

大人(中学生以上)利用割引回数券もあります。11回 3,000円 (回数券は車内や社協窓口で販売します)

図. あづみん 11号※ (平成19年8月23日発行)※安曇野市社会福祉協議会 広報

(3) 事業者、インターネットなどを通じた観光客へのPR活動

観光客向けのPR活動として、安曇野市外の利用者に向けたPR方法についても、より有効で、効率的な方法を検討し、利用促進を図ります。

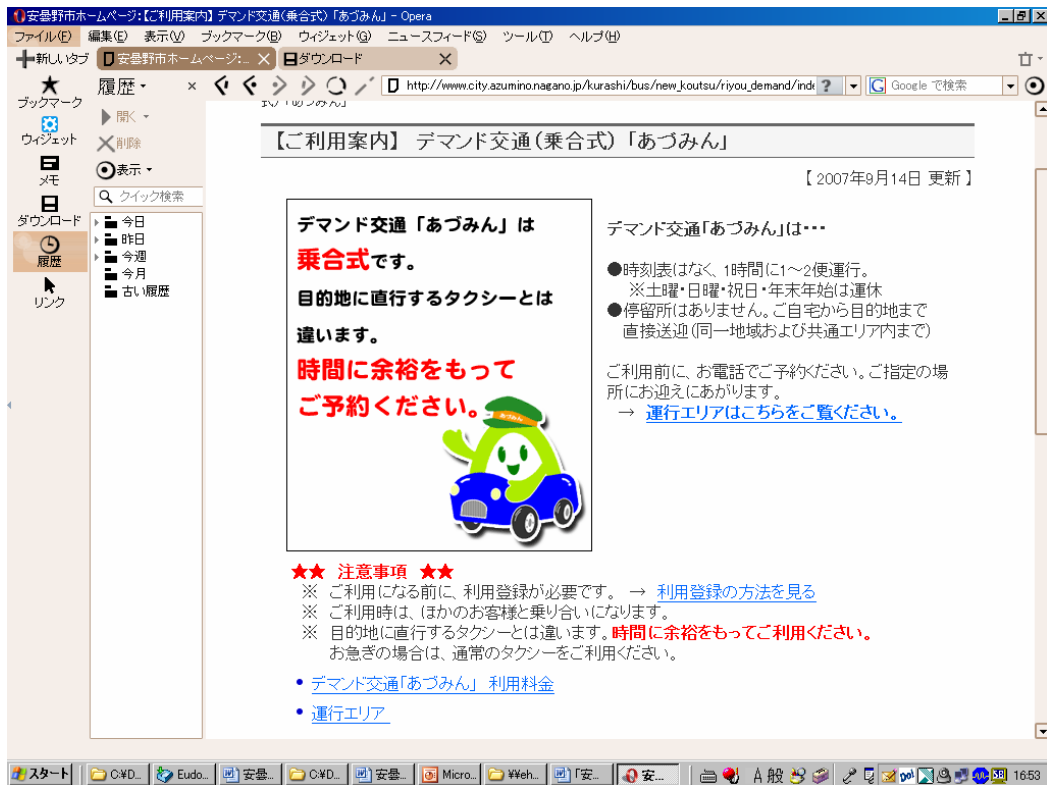


図. 安曇野市 ホームページ

(4) 「地域公共交通の活性化・再生に関する」シンポジウムの開催

平成19年11月15日に国土交通省北陸信越運輸局主催、長野県及び安曇野市協力により「地域公共交通の活性化・再生に関する」シンポジウムが安曇野市で開催されました。

シンポジウムは、全国から関係者約250人が集まり盛大に開催され、公共交通施策に対する感心の高さを示すものとなりました。

今後もこのようなイベントを通じて幅広くPRすることにより利用促進を図ります。



図. シンポジウム開催模様



図. 信濃毎日新聞記事 平成19年11月16日

『地域公共交通の活性化・再生に関する』シンポジウム

～地域にとって最適な公共交通を実現するために～

本年10月1日より地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が施行され、地域の公共交通は、行政、公共交通事業者、住民等の地域の関係者の協力のもと、活性化・再生に向けて大きく動き始めようとしています。地域にとって最適な公共交通を実現するために、各関係者がどのように取組んで行く必要があるのか一緒に考えてみませんか？

●日時 平成19年11月15日(木) 13:30～16:30(13:00開場)

●会場 長野県安曇野市豊科4156番地1 安曇野市 豊科ふれあいホール **入場無料**

◆主催者あいさつ 北陸信越運輸局長 有野 一馬……………13:30～13:40

◆来賓あいさつ 安曇野市長 早林 伊三郎氏……………13:40～13:45

◆来賓あいさつ 長野県 企画局 交通政策課長 三村 保氏……………13:45～13:50

◆基調講演 「地域公共交通の活性化・再生について」
国土交通省 総合政策局 交通計画課長 野俣 光孝……………13:50～14:30

「都市型デマンド交通システムの課題と展望」
福島大学 経済経営学類 教授 奥山 修司氏……………14:30～15:10
……………休 憩 15:10～15:20……………

◆パネルディスカッション……………15:20～16:30
テーマ「地域にとって最適な公共交通を実現するための計画づくりに向けて」
・コーディネーター 奥山 修司氏(福島大学経済経営学類教授)
・パネリスト 大平 勲氏(新潟県三条市市民部生活環境課長)
高橋 善幸氏(長野県上田市都市建設部地域交通政策課長)
土肥 三夫氏(長野県安曇野市企画財政部長)
山崎 大行氏(長野県伊那市総務部政策推進課長)

◆基調講演 講師プロフィール
奥山 修司(福島大学 経済経営学類教授)
昭和33年 岡山県出身
昭和62年 福島大学経済学部専任講師
平成14年 福島大学 経済経営学類教授 現在に至る
専攻 マネジメント会計・取引デザイン
(経済組織の戦略や管理を支援する会計情報の研究で、企業だけでなく自治体等の経済組織に共通するマネジメント課題の解決と取引創出に関心を持つ)

■主催 国土交通省 北陸信越運輸局
■協力 長野県・安曇野市

【お問い合わせ先】 北陸信越運輸局 企画観光部 交通企画課
☎ 025-244-6118

図. 「地域公共交通の活性化・再生に関する」シンポジウム案内

2. サービスレベルの向上

(1) 既存公共交通等の利用促進のための見直し作業

既存公共交通の利用促進や、新公共交通システム「あづみん」等のサービス提供においては、利用者の意向、感想を重要視し、安曇野市地域公共交通協議会や運行委員会において施策の検討と改善を行います。

また、既存交通事業者などと連携しより広域な移動に関しても、利便性の向上を図ります。

(2) 未利用者や、公共交通を使わない要因の分析と対処方法の実施

アンケート等により、現在利用されない要因、利用促進につながらない要因の分析を行い、障害要因の排除や、課題解決を行います。

3. 協議体制と連携強化

(1) 協議体制の継続

平成 18 年から発足した「長野県安曇野市地域における公共交通システム構築のための協議会」を、安曇野市地域公共交通協議会幹事会として継続し、安曇野市地域公共交通総合連携計画の推進を図ります。

(2) 新公共交通システム「あづみん」の事業運営に関しては、安曇野市社会福祉協議会が開催する運行委員会を検討の場とし、安曇野市地域公共交通協議会と連携するとともに、安曇野市商工会をはじめ関係機関と連携強化を図ります。